

# 着色期の柑橘類を加害するハナアザミウマとその防除対策

山口県農林総合技術センター農業技術部 <sup>ひがし</sup>東 <sup>うら</sup>浦 <sup>よし</sup>祥 <sup>みつ</sup>光

## はじめに

近年、西日本のウンシュウミカン産地では、露地栽培ワセウンシュウの果実着色期にアザミウマ類による果皮吸汁害の発生事例が認められている。この被害は、特に果実と果実が重なった場所や果実と葉が重なった場所に見られ、このような隙間に潜むアザミウマ類（図-1）が果皮を吸汁し白い吸汁痕を発生させるものである。多くの場合、果実と果実が密着する部分にはアザミウマが侵入できないため、その周縁の果皮のみが吸汁され、リング状の吸汁痕が形成される（図-2）。加害程度がひどい場合には、吸汁痕が褐変し（図-3）、褐変部は腐敗に至ることもある（寺本ら，2001）。長崎県においては、2000年10月中旬、ワセウンシュウ成熟果にハナアザミウマ *Thrips hawaiiensis* (Morgan)、ビワハナアザミウマ *T. coloratus* Schmutz、キイロハナアザミウマ *T. flavus* Schrank による障害が発生した（寺本ら，2001）。また、佐賀県においては、2009年9月下旬、ワセウンシュウ果実にビワハナアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ *Frankliniella intonsa* (Trybom) の吸汁害が多発した（衛藤ら，2010）。山口県においても、2009年に周防大島町においてワセウンシュウを中心に着色期の果実において大きな被害が発生したため、2011～15年にかけて山口県における加害種と被害発生状況、および防除対策等の調査を行った（東浦・村本，2017）。ここではその概要を報告する。

本文に入るに先立ち、薬剤感受性検定方法に関し有益なご助言をいただいた OAT アグリオ株式会社 の和氣坂成一氏に厚く御礼申し上げる。

## I 加害品種および加害部位

山口県大島郡周防大島町東安下庄の柑きつ振興センター内圃場において、2011年11月10日から12月12日

Infestations of *Thrips hawaiiensis* (Morgan) (Thysanoptera: Thripidae) on Ripe Fruits of Citrus and Its Control. By Yoshimitsu HIGASHIURA

(キーワード：柑橘類，着色期，果皮吸汁害，ハナアザミウマ)

にかけ、着色が進んでいた‘大島1号’（宮内伊予柑と吉浦ポンカンの交配種）、ユズ、‘太田ポンカン’、スダチ、カボス、‘リスボンレモン’、‘長門ゆずきち’について、果実と果実が接した部分（以下、果実間）と、果実と果

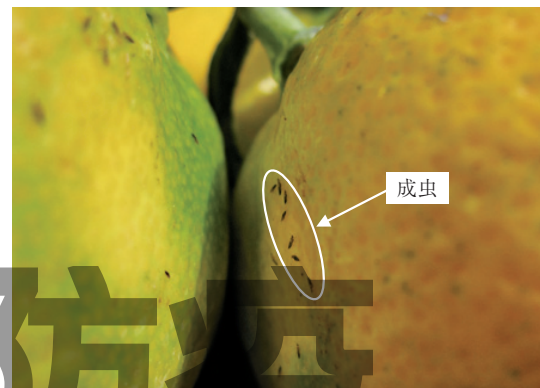


図-1 果実間に認められたアザミウマ類成虫

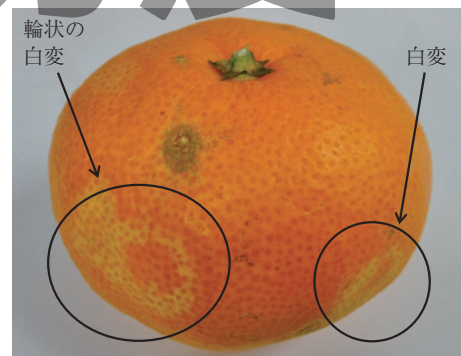


図-2 ‘宮川早生’に発生した輪状吸汁痕



図-3 褐変した吸汁痕